

2013.06.19

「倫選特流会！委員会ルールを無視する民主党！」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。本日は6月19日水曜日の午後3時半です。本日は午後1時から倫理選挙特別委員会という参議院の委員会がありまして、ここで0増5減案が審議される予定でした。しかし、本日は審議ができず、流会になりましたが、その原因は、本日の倫理選挙特別委員会では、それぞれの党が質問し、同時に、みんなの党が出している法案も審議をしようというところまで決まっていた。しかし、民主党の委員長である轟木委員長が、この職権で自民党と公明党の与党分の質問時間を無しにして、委員会の設定を行いました。これは全くの暴挙で、質問権を委員長が取り上げるということは有り得ないことです。与党でも、自民党と民主党にも質問の時間を与えなければなりません。そういった暴挙に出たことにより、これでは駄目だということで、委員会、理事会で轟木委員長に解任動議を提出致しました。

解任動議を提出致しますと、当然のことながら、どの議題よりも、第一優先で審議をしなければなりません。しかし、自分の解任動議が出されている委員長が司ることはできませんので、そこは委員長職務代行者を置くことになります。その職務代行者に使命されたのが、民主党の芝議員です。この人は、職務代行者は、委員長と同じ権限を持っているとして議論を開始しましたが、これは全くおかしい話で、職務代行者は委員長が解任動議をするまでの間の委員長を代

行するだけであり、その他の委員会運営全般に関して委員長と同等の権限を有するというのは、委員会の常識として有り得ません。しかし、有り得ないことを彼らは自分勝手な論法で、自分に権限があり、その権限からすると、そもそも解任動議を今採決しても良いのかという所に疑義があり、自分は反対であるということを繰り返し、委員会が開けなくなりました。本当でしたら、審議は全部できているだけの時間を費やして、結局本日は「流会」ということになってしまいました。そして、もう一度6月21日金曜日の本会議散会後に、解任動議の議決を行うということが、職務代行者の芝議員から説明されました。

しかし、この一件には「何の意味があるのか」ということです。つまり、本日の内に動議の採決を行わないで、21日に動議の採決をすることにより、一体何が起きてくるのか、と言いますと、要するにこの0増5減案というのは、最高裁で1票の格差が衆議院議員選挙にて2倍を超えたため憲法違反の疑いがあるとの指摘がされていることについて、その部分だけでも直そう。他の各党選挙区の定数を修正するという話もありますが、とりあえずは憲法違反の部分だけを優先し、他に関しては今後じっくり議論しよう、というわけです。しかし、問題なのは民主党が議員定数を減らすというパフォーマンスをしたいだけであることです。審議されましても0増5減案は、与党会派の議員数の点から否決されてしまいます。そして否決された時点で、参議院から衆議院へ戻り、三分の二の再議決が出来る、つまり違憲状態が回避できることになります。今

回の一件は、それを伸ばすための民主党の作戦でしかありません。つまり、参議院は制度上、衆議院から送付されてきた法案が 60 日以上経過しても結論が出ない場合は否決とみなされます。この「60 日規定」を考慮すると、21 日がちょうど否決される日となってしまいます。ですので、本来ならば 21 日中に議論を行い、衆議院に法案を送ればいいものを、民主党は「未だ議論中だから、そのようなことはできない」として、「60 日規定」を採用し、当法案を通すまいとしているのであります。そして、そこに自民党が強行的立場を取ると、民主党は「それは暴挙である」といい、国民に見せつけることを狙っているのでありましょうか。彼らの考えは私には分かりません。

しかし、もっと問題なのは、議会において重要な「委員会で議論をする」ということでもあります。そして、議論をする上で重要なことは、委員長が公平な采配をすることでもあります。そこに、委員長自身の政党は関係ありません。その民主党出身の委員長が、自らの意にそぐわない与党会派の議員の質問自体をやめて、議論を行うというところからおかしな話になってしまいました。そして、解任動議が出た場合には、粛々とそれを執行しなければならない。それを執行するのは代行の委員長ですが、その彼自身はその動議に関しての審議に対して問題提起する権限はありません。粛々と採決を行えばいいものを、それすら行うことが彼らにはできません。それでは、一体何のために忙しい時間を割いてこの委員会に参加しているのか、まったく意味がわかりませんでした。そ

のような理由で、本日の委員会では芝議員に大きな声で「いい加減にしろ」と野次を飛ばしました。マスコミでどのような報道がなされるかわかりませんが、本日はこの一件の舞台裏をお伝えしたく話をさせて頂きました。

本日も御覧頂きありがとうございました。